

⑪馬込文士村を訪ねる

催行日：2018年10月24日（水）

集 合； JR大森駅ホーム 09:30（ホーム中央の日本考古学発祥の碑付近）（やや前より）

- ・中川 8:29 発-8:55 横浜駅（JR 京浜東北）9:04 発-9:26 大森駅着
- ・中川 8:29 発-8:31 センター北 8:34 発-8:46 日吉 8:52 発-9:05 大岡山
大岡山発 9:06-9:15 大井町発 9:21-9:24 大森駅着（4回乗換）
- ・中川 8:32 発-8:35 あざみ野発 8:42-8:51 溝ノ口発 8:52-9:15 大井町
大井町 9:21 発-9:24 大森駅着（3回乗換）

行 程：大森駅⇒文士レリーフ⇒大森射的場跡⇒闇坂⇒山王会館（馬込文士村資料展示）⇒善慶寺（義民六人衆墓）⇒片山広子・山本有三（旧池尻川跡）⇒おこん坂⇒石坂洋二郎・川端康成⇒臼田坂⇒磨墨塚（するすみづか）⇒稲垣足穂・衣巻省三⇒尾崎四郎・宇野千代⇒真船豊（南馬込五丁目公園内）⇒郷土博物館・佐藤朝山邸跡<解散> ⇒ 馬込文士村西馬込商店街入口⇒都営地下鉄西馬込駅（解散後は自由行動）

■ 出発：大森駅中央改札から西出口に出ると、車両の通行量が非常に多い池上通りを挟んだ



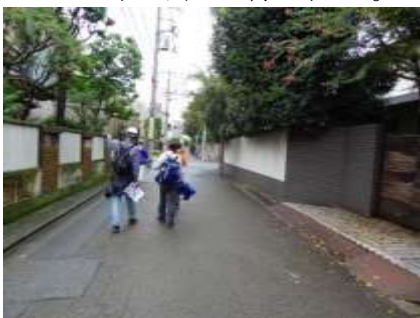
向側に、こんもりと大木が茂った森がビル群の間に見える。その下のコンクリート壁の階段を

上がり、更にその上の石垣塀の間の狭い石段を上る。右側石垣に万年筆を型とった「馬込文士村散策のみち」の案内板と由来の説明版あり。更に上がると、文士村に住んだ知識人をはじめ、大正末から昭和初期の文士村の風俗を表わしたレリーフが石垣に貼り付けられている。

■ 石段を登り切った右側にある古木大木に囲まれた神社は天祖神社という。天祖神社の創建は分からない、古くは神明社といわれた。八幡太郎義家が奥州征伐のとき戦勝を祈願したといわれている。



■ 天祖神社を背に直進。この付近一帯を山王と呼び、大きな邸宅が並ぶ。



この地は高台で日当たりが良く、弥生時代には既に弥生人が集落を成して住んでいた遺跡が発見されている。紀元後3世紀中がら後の遺跡が発掘され、山王遺跡と名付けられた。

少し進むと左側に城の形をした教会が



あり、更に進むと右側の豪邸の石塀の間に地蔵堂があり、大人と子供と見える2体の地蔵が安置されている。高級住宅街には何とも不似合いな古風な地蔵堂である。



■射的場跡 日本帝国小銃射的協会と彫られた石碑のある場所は小高い岡の峰にあたっており、かつて射場があったテニスコートの部分は窪地のようにになっていた。1888年(明治21年)に東京共同射的會社と文京区射撃協会の射的場が合併し、大森の山王に移転、日本帝国小銃射的協会となった。



■「闇坂」射的場前を通過、山王2丁目14の表示がある所を右折し、直ぐに左折するとやや広い通りに出る。通りを渡って左前方に「闇坂(くらやみざか)」の案内柱あり。急角度の下り坂道で両側とも10mもありそうな石垣で突き上げられた屋敷となっている。

その上から大木の枝だが延びており、昔は薄暗い道路であったであろう事がうかがえる。

この事から、この名が付けられた由来であると案内柱にある。

■闇坂の案内柱の角を右折して進むと右側に「山王公園」(トイレあり)。続いて「山王保育



園」前を道なりに下る。その先T字路を「山王会館」の標識に沿って左折して下る。やがて右側に樹木が生い茂った公園があり、公園入口の石段横の金網に「山王会館」案内板あり。その角を右に曲がり



坂道を上がる。直進、左側崖斜面にビル建築工事中につき注意。その右前が「山王会館」。

■「大田区立 山王会館」 マンションかとも見まがうような瀟洒な建物、「馬込文士村資料館」



入口は建物の裏側中央あたりにある。中に入ると左側に受付窓口あり、館内案内書をくれる。館内は土足禁止、スリッパに履き替え、また「館内撮影禁止」につき要注意。小休止(トイレあり)。この後、コンビニで借用する以外

に郷土資料館までの約1時間トイレなし)。

■外に出て右へ、10段ほどの石段を降り左へ狭い路地を下る。煉瓦敷の路地に出る、山王3丁目22の表示





の角を右折、前方に寺の山門が見える。
この寺「法光山善慶寺」と言い、東京都旧跡文化財に指定されている。江戸時代に

起こった「義民六人衆の墓」としてその名が知れ渡っている寺。歴史散策の一人旅や団体で訪れる者が多い。ペットの共同墓碑もあり新しい花が添えられていた。

■「善慶寺を」出て、元の山王3丁目22辻まで戻り、右折、路地の坂道を下り、←→標識の角を右折して進み、突き当たりのT字路を右折、更に山王3丁目16の表示を左折すると環状七号線に出る。右折して新新井宿歩道橋を通過、前方の環七線沿いに「旧池尻川跡」の案内柱とその横に「山本有三」「片山広子」両文士の記念碑あり。



■細いくねった路地を進み環七を渡ると住居表示は南馬込となる。前の細い路地を直進、



突き当たりの大倉山公園案内板の角を左折、再度左折して進むと「おこん坂」のいわれを書いた案内柱と、その横に←倉田百三・→石坂洋二郎・川端康成の記念碑への方向表示板あり。右方向へ向かうやや広い道を上り、リビングパーク駐車場看板手前を左折。直進すると南馬込三丁目都営アパート前が出る。ここは江戸時代の老中阿部正弘の別邸跡



■更に進むと「石崎洋二郎」「川端康成」両文士の記念碑の目に出る。この前の坂道を下り、赤いポスト下の広い道を右折、青いブタンらしい柑橘がたわわに実をつけた枝が垂れ下がった民家の下を上がると、南馬込文化センタ

一の標識の下をくぐる。右側に「臼田坂(うすだざか)」の案内柱と、その横に地蔵堂の祠があり、花が添えられている。



■南馬込三丁目18の標識がある店先を右折すると直ぐに、「磨墨塚(するすみづか)」の高い自然石からなる由来を書いた記念碑と大木が生えた一角がある。



前方の八百屋前を左折して進むと、段差がある上下の路地をつなぐコンクリート石段脇に稲垣足穂・衣巻省三の記念

碑がある。ここから150mほど離れた、南馬込四丁目29の十字路を右折、南馬



込四丁目27表示横の文士村案内マップ前を左側に坂を下ると、尾崎四郎・宇野千代二人の記念碑がある。

■少し進んで十字路を真っすぐ行くと「鑑坂(あぶみざか)」の案内柱あり。この横の十字



路を前へ直進、突き当りの斜めT字路を左へ、直ぐに右折、



馬込区民センター・熊谷恒子記念館・郷土博物館方向標識前を郷土博物館方向へ進み、南馬込五丁目13表示を右折、梅園目を過ぎると、南馬込五丁目公園あり、この公園内に「真船豊」の記念碑がある。真船豊の住まいがこの公園敷地にあったと説明にある。

■直進してT字路を手前に「←郷土博物館」表示板あり。左折して



2018年度つづきナビ倶楽部 散策ガイド
馬込文士村を訪ね



坂を下ると直ぐに「大田区立郷土博物館」前が出る。入口右側に「佐藤朝山」の記念碑あり。朝山は、この敷地に大きな家を構えたとある。

この郷土博物館には、昭和初期の文化村と呼ばれる前から戦後にかけての非常に貴重で、珍しい資料が多数陳列されている。小休止をかねたゆっくりご覧あれ。(トイレあり)

<ここで今回の散策は解散・あと自由行動>



■郷土博物館を出て、左へ道なりに真っすぐに進むと約400mで、西馬込商店街の馬込文士村入口にでる。すぐ右に都営地下鉄西馬込駅あり。前の広い道路は第二京浜国道。



■付近案内 駅を出て左へ、西馬込駅～本門寺まで約700m 8分

西馬込文士村商店街入口を少し戻るといろいろな食堂あり。本門寺方向に少し行くと、すし屋、ひもの屋、そばらーめん屋、ジョナサン等あり。

以上で、案内を終わります。

